



ブロードウェイ劇場街の中心、タイムズ・スクエア



いま最も話題のミュージカルSpider-Man: Turn Off the Dark at Foxwoods Theatre



サックス・フィフス・アヴェニューのショーウィンドウ

ニューヨークといえば、なにを連想しますか？
地下鉄のブレーキ音、消防車のサイレン、洗濯洗剤の香り、多文化、観光客、世界各地の料理、ジャズクラブ、自由の女神像、四角い空、マンホールから上がる水蒸気。

アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク市は、マンハッタン、ブルックリン、クイーンズ、ブロンクス、ステタンアイランドという5つの行政区の中に様々な文化が混じり合う、アメリカ合衆国の中でも極めて特殊な環境です。行政区それぞれに違う雰囲気を持ち、また行政区内も町によって細かく分かれています。町ごとに住民の人種や家柄が異なるため、道を隔てて向こう側は全く違う顔を持つ、ということも珍しくありません。

「ニューヨークに住む」とは、上記の五行政区内に住まいを持つことになり、ニューヨーク州全体を示すことはありません。

ニューヨークに住んでいてよかった、と思う瞬間は何度もありますが、一番強く感じるのは舞台鑑賞後です。才能と努力を兼ね備えた役者、ダンサー、作家、演出家、芸術家、技術者、そして経営者たちの総合芸術である作品が連日連夜、幕を開けます。ニューヨークが劇場の街として、どのようにアメリカ合衆国内の他都市と違う発展を遂げたかは、アメリカ大陸開拓史を探ってみると明らかになります。もともと、ヨーロッパからの移民は、宗教的な目的でアメリカ大陸へやってきました。彼らは「何者かをまねる行為」イコール演じることを悪と

【なかせ ゆき】

1999年日本女子体育大学芸術スポーツコース卒業後、株式会社日本テレビアート照明部入社。2007年同社退社。2010年 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校演劇学部卒業。現在ニューヨーク大学大学院 Tisch School of the Arts Department of Design for Stage and Film在学中。
<http://yukinakase.com/>



バレエ「スナップ・ショット」振付：Cherylyn Lavagnino
 照明：中瀬 有紀 写真：Ella Bromblin



メトロポリタンオペラ「ラインの黄金」終演後



リンカーンセンターの噴水



ニューヨーク大学大学院、現在一年生照明デザイナーの6人
 (左からBarbara Samuels, Christina Watanabe, Derek Van Heel, 中瀬 有紀, Elizabeth Coco, and Cecilia Durbin)

し、舞台芸術を認めませんでした。一方、他都市と異なり、オランダからの移民が商業的な目的で開拓したのがニューヨークの始まりです。彼らは教会の建設や宗教的な修行を行うよりも、ビジネスを優先し、舞台芸術を認めます。また、1770年代から1780年代におけるアメリカ合衆国の独立においても、アメリカ合衆国議会は舞台芸術を禁止しますが、当時のニューヨークはアメリカ合衆国議会ではなくイギリスによってコントロールされていたため、ニューヨーク内の劇場は存続します。そのため、ニューヨークだけは舞台芸術に対して常に開放的で柔軟性を持ち合わせることになりました。

ブロードウェイ劇場産業のオフィシャル・ウェブサイトを、The Broadway Leagueのリサーチにより

ますと、2010年11月22日から28日までの一週間（業界最大の書入れ時である感謝祭の祝日を含む）現在営業中の40のブロードウェイ劇場において39作品の演劇とミュージカルが開催され、270,277人が観劇し、その総売り上げは26,365,120ドルです。このデータは、ブロードウェイ劇場だけを例にあげても、ニューヨークにおいて、観劇がどれほど人々を魅了し、暮らしの中に浸透しているかを証明しています。舞台芸術がどうして人間社会に必要な活動なのか、その答えを探る課程を、ニューヨークと照明デザインを通して、このNYエッセイに書いていきたいと思えます。

NYC Grosses. 12/5 2010.Web. The Broadway League. <<http://www.broadwayleague.com/>>.